

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1 8 9 1 4 1 3
園名	東京ゆりかご幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然との関わりを通した探求的学び

<テーマの設定理由>

本園の園庭は里地里山を中心とする自然豊かな環境であるため、昆虫をはじめとする様々な野生動物が棲息する。そのため、園児は様々な生き物と出会い、興味関心を深め、広げている現状であるが、園庭が広大であるが故に、発見し採取した生き物について調べたくとも、保育室に図鑑を取りに行くために相当な距離と時間を要する。そこで、自然豊かな園庭の特長を活かし、園児が多様な生き物と主体的に関わることを通して科学性の芽生えを一層促すことのできる環境構成を図る。

2. 活動スケジュール

令和6年11月より基本的に毎日行った。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり 等

・自然に関する図鑑と移動式本棚を用意し、保育室、縁側テラス、園庭などに、興味を持った図鑑を園児が持ち出して、興味を示した生き物や自然物などについてすぐに調べることができるようにした。園庭の各所に図鑑を保管したり落ち着いて調べたりすることができるよう、「キャンプテント」を園庭の数箇所（森の広場、山の頂上、芝生広場など）に設置した。テントには湿気が伴わないよう、テント下にパレットを敷いて通気性を良くし、恒常的に使用できる環境を構成した。

・園児は、里山の園庭で様々な動植物と出会い、わからないことがあるとすぐに図鑑で調べたり、友達同士や教諭と一緒に調べるようになった。また、室内で過ごす時にも、テラスにおいてある机に図鑑を広げ、友達同士で会話を弾ませながら、様々な動植物や自然事象について調べていった。図鑑の写真を見てそれぞれの種類の類似点や相違点などについて感想を伝え合い、文字を指さし声を出して読み合う様子が印象的であった。テントでは、空間特有のリラックスした雰囲気の中、寝転びながらゆったりと図鑑を読み合ったり、テントの上に舞う落ち葉の陰に心奪われる様子も見られた。

4. 振り返り



<振り返りによって得た教諭の気づき>

日々の遊びを振り返る中で、教諭にも様々な気づきが得られた。

- ・本棚を置く場所によって子どもの使い方が大きく変わった。例えば、保育室と園庭の中間のテラスに置くことで、室内外共に利用しやすくなった。
- ・園児は動植物などに興味を示し、デジカメで撮影すると、その画像を見ながら図鑑で名前や特徴を調べたり、紙や石などに模写する様子がみられた。教諭の想定を超える園児の主体的な取り組みに驚かされる場面が多くあった。
- ・これまでは生き物などの図鑑が多く、特に男児が興味を持つ傾向が強かったが、今回、各クラスに 20 種類の様々な自然の図鑑を設けたことで、女児も例えば鉱石や草花などの図鑑に興味を示し調べるようになった。
- ・常に身近に豊富種類の図鑑があることで、「調べれば殆どのはわかる」という意識になり、図鑑で調べることが当たり前の行動となった。
- ・「形は覚えているが名前は知らない」という生き物を調べることが多いが、これまでは図鑑の種類が少なく、あっても絵本の部屋に行かなければ探せないため、探求活動もそこで終わってしまうことが多かった。しかし、図鑑などの整備後は、自分たちで調べたいときに調べられるようになり、探求活動へのハードルが非常に下がった。
- ・図鑑を、「調べるための本」としてだけでなく、絵本のように読み物として「見る、読む」を楽しむ様子が見られるようになった。また、図鑑の写真があまりに鮮明で拡大画像などもあるため、これをデジカメで撮り、それをプリントして園庭に持って行って対象物と見比べるなど様々な使い方を創造していく様子が見られた。
- ・スマートフォンやタブレットで調べる場合、検索してもその種だけ終わってしまうことが多いが、図鑑は関連種の写真も網羅的に把握することができ、知識や興味の幅を広げていくことが容易であることを再確認した。
- ・園庭でじっくりと図鑑を広げて調べる空間はこれまでなかったが、拠点としてのテントが常設されたことで、園庭で遊びながら、時々テントに入り自分のペースで落ち着いて調べる様子が見られ、個別的な遊びや探求的活動を思う存分におこなえるようになった。
- ・各所で図鑑を広げる中で、単に自然等に詳しくなるだけでなく、友達同士の会話が増え、関係性がより密に豊かになっていく様子が見られた。